

『外国人の意見を聴く会』について

1 実施概要

■開催日時

令和6年1月21日（日）午後1時～午後2時15分

■参加者

12人（国籍：ブラジル、ベトナム、中国、フィリピン、インドネシア）

※主に「とよたフレンズ」に認定された、本市の多文化共生の取組に協力している団体に所属する外国人の方

■テーマ・内容

①「つながり」について—地域で暮らす中でのひととのつながり—

②「住みたいまち」について—どんなまちになってほしい？暮らしやすいまちって？—

2 主な意見

【つながり】

- ・日本語が話せないため、地域と繋がるのにハードルを感じる。助けて欲しい時に自分からSOSを発信できる人はいいが、埋もれてしまう人もいる。
- ・困ったときに行政の支援も必要な場面もあるが、国籍を超えた助け合いが重要。
- ・市役所での手続きの際に、行政が通訳を準備してくれているが、対応しきれない部分は自分達で通訳を探せるよう、個人でも通訳を簡単に探せる仕組みが欲しい。
- ・障がいのある子どもを育てる親のケアも重要。親同士のコミュニティを作って活動しているが、もっとコミュニケーションができるといい。

【住みたいまち】

- ・安全安心なまちに住みたいが、高齢になったときの生活が心配。福祉は基本的に申請主義。言葉がわからず自分で動けない人や認知症になってしまった人など、支援を受けるタイミングが遅れてしまう。
- ・豊田市は田舎過ぎず、都会過ぎず住みやすいまち。ただし、一生暮らす家を探すととなると近隣自治体と比べて土地が高いと感じる。
- ・豊田市で生涯暮らしていくと思うと死んだときのお墓の問題がある。イスラム教やキリスト教では、火葬ではなく土葬を希望するが、和歌山など一部でしか土葬が認められている場所がないと聞いている。

3 まとめ

- ・本市においては、外国人の数は増加傾向であり、今後も外国人にも選ばれるまちを目指していくうえでは、価値観や文化、宗教観（埋葬方法など）等の多様性を受け入れ、対策を検討する必要がある。

- ・子育てや教育、福祉などの分野において、困ったときに頼れる存在が無く、抱え込んでしまふなど、つながりが築きにくい現状がある。外国人においても、国籍を問わず共助や近助（きんじょ）のつながりを持てるよう考える必要がある。
- ・地縁組織の在り方についても、外国人も巻き込んで検討していく必要がある。

4 当日の様子

